

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉邦人 正恵会		
事業所名	グループホーム ホームタウン宝木(かえでユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメント業務を通し、一人ひとりに合った支援を心がけている。その土壌として、人として、当たり前の生活の支援。例えば、職員からの挨拶や声かけに始まり、トイレでの排泄など。利用者さん9名という少人数であるが、業務の忙しさという理由で、孤立する利用さんがいないように、支援をあまりされない利用者さんがいないように。また、これではないかという支援にならないように心がけている。当たり前の事ではあるが、忘れやすい部分でもあるのではないかと考えている。その上での専門性の大きな柱として、身体介護、認知症ケア、機能訓練、余暇支援(レクリエーション支援)の4点。ホームM内での学習会を行っている。オープンしてから2年目である状況としては、今後1年～3年はこの4つの柱をさらに煮詰める方向である。その後は、ケアの到達点にあわせ、柔軟に対応していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある開設2年目のグループホームで、2つのユニットがあり、デイサービスと居宅介護支援センターを併設している。法人の理念「忠恕」を受け継いで、「一人ひとりに対し思いやりやまごころを持った介護をしたい」と職員は考え取り組んでいる。軽度の方も重度の方も受け入れて、一人ひとりに対応するケアを大切に入居者に必要な介助や自立への支援をしている。ミーティングで「園芸を取り入れたい」「回想法を取り入れたい」「入居者と一緒に買い物に行く機会を作りたい」など職員から出された提案について話し合い、例えば、ホーム内の畑でボランティアに野菜を作ってもらい入居者が収穫を楽しんだことや、「回想法」の研修に参加して学んできたことを入居者実践するなど具体化している。自治会に入会し、地域の祭りへの参加を予定しており、グループホームと認知症の理解につながるような内容の広報紙も地域に配布するなど、地域との関係が徐々に広がっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念について、開所以降、特に改めて公示される機会がなく、職員の退職や中途採用により、あいまいになっており、共有の意識は薄いと思われる。	昨年からの課題である事業所独自の理念を策定するため、管理者と介護計画作成担当 者であるユニットリーダーが取り組んでいる が、策定途中である。	「一人ひとりに対し思いやりやまごころを 持った介護」や「地域の中に入居者が暮ら していることが認識できるような介護」をユ ニットリーダーは意識しているので、スタッ フの拠り所となるような事業所独自の理念 の完成を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	診療所、薬局、理容店、酒店等、限られてはいる が、利用時にいくらかは交流がある。近隣の方と は、時折の散歩時に挨拶を交わす程度である。 10月から自治会へ加入したので、今後は地域の 行事等へ参加をしていきたい。	自治会に加入したことで、回覧板が回ってきたり宝 木小学校で行われる地域のお祭りにも参加する予 定で、地域との関係を徐々に広げている。また、グ ループホームと認知症の理解につながるような内 容を盛り込んだ広報紙も地域に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議の際に、ホームでのエピソード 等をお話しており、少しでも認知症の方 への理解つなげたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議は2カ月に1回行っており、アド バイスをいただいて、自治会へ加入したり、 地域の情報等もいただいている。	今年度から年6回開催する予定で運営推進会議を 実施している。会議の中で、外部評価結果が報告 され、災害時の対応や避難訓練のことも話題とな り、近隣とのつきあいや施設を知ってもらうことが 大切であることから自治会への加入に至っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新規の事業所であるため、相談をさせてい ただくことも多い。	施設開設時は相談することが多かったが、現 在は市の窓口には入居者の介護認定更新時 などに訪問する程度である。施設としては法 改正など運営に関する情報を少しでも早く知 らせてほしいと期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しているかは疑問 だが、玄関の施錠は夜間のみであるし、出 来るだけしないようにという意識はあると思 う。	身体拘束ゼロへの手引きで禁止されている行為を する場合は、家族からの依頼であっても説明同意 を得て、行政への報告もするようになっている。施 設独自に「行動制限廃止に対する指針」を持ち、 身体拘束をしないケアに関してはユニット会議の 場で職員に正しく理解するよう伝えている。	現在身体拘束をしている入居者はいない が、自己評価では全ての職員が正しく理 解しているかは疑問であるとしている。「言 葉での拘束」「今したいことを抑えてしま うこと」など日々のケアの中で注意が必要 であり、理解が不足していると認識してい るので、更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と一部の職員は、研修等で学ぶ機会があり、虐待やそれにつながるような言動には注意を払っていると思う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と一部の職員は、研修等で学ぶ機会はあるが、それについての話し合い等は特別していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面談や契約時に、十分説明しており、理解・納得を得られていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日常の係わりの中で、出来るだけその声を拾いたいと思っている。家族には、出来るだけ、来訪時にお話をうかがうようにしている。	開設2年目であることから、入居者も家族もグループホームでの生活に慣れることが先で、暮らし方に対する要望はあるが、運営に関しての意見や要望を出すまでには至っていない。外出の要望に応えるため買い物と一緒に出かけるなどの工夫はしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な書類の提出や個人面談等、機会は設けられている。	ミーティングの中で「園芸を取り入れたい」「回想法を取り入れたい」「入居者と一緒に買い物に行く機会を作りたい」など出された提案に対しては、具体化するための話し合い、研修会への参加など、意見を反映させるような取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、人事考課表や研修計画シート等の提出と個人面談がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部の勉強会へ、参加の機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加時に交流の機会はあると思うが、それを積極的に利用できていないと思う。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入所前にも利用者と面談をし、アセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や契約時に、丁寧に面談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の経緯にもよるが、場合によりケアマネージャーの方等も含めて相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人差はあるが、洗濯物たたみをしていただいたり、一緒に談話を楽しむ等心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人差はあるが、家族には、入所後も、随時、以前の事をお聞きしたり、ホームでの事を報告・相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差があるが、自宅へお連れして近所の方と交流されたり、親戚の方へお電話をしてお話しいただいたり、ご友人からのお便りの返信を促す等している方もいる。	例えば、昔の教え子からきた手紙への返事を出す支援や姪の訪問を確認する電話を入れるなどで、関係性が切れないような支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係把握には十分努めており、時には職員が介入して、関わりを促したり、出来るだけトラブルを避けられるよう気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	未だ、ユニットから退所された方はいない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りのコミュニケーションを通じ、また様子観察する等して、把握に努めてはいる。	入居者と2人で買い物に出かけた時や夜間に話したような雰囲気を感じた時に、思いや意向の本心を聞けることがあるので、入居者と過ごす時間を大切にしている。また、生活の場面でふと漏らした言葉から思いを拾うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを通じ、また様子観察の中で、時には家族に確認したりして、把握に努めてはいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時には詳細を記録したりして、変化の把握に努めてはいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人差があり、必ずしも十分な話し合いが出来ているとは言えないが、努力はしている。	両ユニットリーダーは、計画作成担当者であることから、基本的にアセスメントやモニタリングを行い、他の職員から寄せられた意見も盛り込み介護計画を策定している。思いを言葉で伝えられない入居者の計画は、悩みながらも想像して策定するが、介助の仕方は職員みんなで相談し工夫している。	計画作成担当者であるユニットリーダーが介護計画を立てているが、より良い暮らしを送るための介護計画とするため、職員の積極的な関わりを求めて、更に活発な意見が出されるようケース会議の充実を図ることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必ずしも記録が十分とは言えないが、出来る限り努めてはいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的な支援に努めてはいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入したばかりであり、事業所自体、未だ地域資源の把握は不十分であると思われる。今後は意識して支援につなげていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して、受診を介助したり、ご家族にお任せしたりしている。	以前からのかかりつけ医に通う1人を除き、ホーム近くの協力医がかかりつけ医となり、主に職員が通院を介助している。通院の結果は家族に職員が報告をしている。歯科は週2回の訪問歯科検診で口腔ケアと治療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問看護の際に相談をしており、必要時にはデイサービスの看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に入院された利用者は2名で、その際の情報交換や相談は、家族も加わり、適切に行われたと思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人との話し合いは、現実的には難しく、出来ていない。家族には、現状に基づきながら、段階的に将来的なお話をされていたいている。	「事業所に於ける看取りに関する指針」があり、入居のさいに家族に説明している。まだ看取りの例はないが、今は看取り以前の常日頃の健康管理をより大切にしたいと思っている。	「指針」にそって、看取りに関する職員教育や、家族、医師、看護師、職員との連携についての話し合いやグループホームで出来ることできないことの見極めをしておくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、定期的な訓練には至っておらず、随時上司に連絡して指示を仰ぐことが多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地域との協力体制は出来ていない。	事業所内での避難訓練は実施しており、非常災害時の役割分担もできている。10月に自治会に入会し、運営推進会議で協力を呼びかけ地域との協力体制を築こうとしている。	重要事項説明書にそったマニュアル等の整備、消防署と連携した避難訓練、地域の協力体制作りの実施を期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮はしているつもりだが、プライバシーの尊重と十分な把握というバランスに、難しさを感じる。	入居者のプライバシー保護に関する内部研修が実施されている。入居者に合わせた丁寧な言葉使いを心がけている。入浴介助の際職員配置の都合上同性介助ができないことに慣れてしまうことなく、疑問を持ち続け、一人ひとりを尊重することを大切にしたいと思っている。	入居者の誇りを傷つけるような言葉使いをしていないか、日常的に事業所全体で話し合う取り組みが求められる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事柄により、希望をお尋ねしたり、その思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲での希望には沿えるよう努めているが、職員による個別の対応となると限界があるし、利用者同士の関係性等もあり、十分にとはいかない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内の鏡の数が少ない。身だしなみは、衛生に直結するため気配りをしている。利用者によっては、着替えの準備を手伝う際、適切な物の中からお尋ねして選んでもらうようにしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に取っているが、準備や片付けは、状況により、特定利用者と一緒にすることもある。食の好みは、普段からお尋ねしたり、様子観察したりして把握に努めている。	日曜日以外の昼食は、同法人内の配膳センターから配達されるが、それ以外は職員が作っている。ホーム内の畑でボランティアに野菜を作ってもらい、入居者は収穫を手伝い、たくさんの夏野菜が食卓に上がった。	入居者の食への関心をふやし、食の楽しみにもつながるので、今後も畑での野菜作りを継続することを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	把握には努めており、利用者によっては、介助をしたり、量を記録したり、少ない場合には好みの物に変えて勧めたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に2回の訪問歯科による口腔ケアが行われおり、状態は適切に把握されている。昼食・夕食後は行っているが、朝食後については、職員1名での対応は難しく、より必要性の高い1名のみになっている。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導等は、適切に行っていると思う。体調等による失禁状況の変化にも気をつけている。	入居者の排泄パターンをつかみ失敗を減らすよう工夫して誘導している。皮膚の弱い入居者のためにリハビリパンツをやめボクサーパンツとパットを組み合わせて使用することを考案し、履き心地がよいと喜ばれている。便秘対策として毎朝牛乳を飲むこと、腹筋運動、腹部マッサージ、果物や干しいもを摂るなどしている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内部勉強会で学ぶ等、利用者によっては記録をして把握し、適切な対応をとるようにしている。		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿うようにしており、4名はほぼ毎日、4名が1～2日おきに入っているが、時間帯については、職員の人員配置上、希望通りにいかないこともある。また、重度の1名は、安全面から2名介助にしているため、職員都合になっている。	毎日午後に入浴することができる。介助は1名で、同性介助としたいが、職員の配置によっては異性介助になってしまうこともある。基本的には入居者の希望に配慮したいと考えている。重度の入居者は2名介助で、隣接のデイサービスの機械浴を使用する。毎日午前中に足湯をしている。身体が温まり、むくみも軽減すると喜ばれている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に休息は自由であり、ご自身で不可能な方は、状況により臥床していただいている。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿やチェック表を作成して利用しており、必要時にはユニット会議などでも再確認するようにしている。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めているが、実施に個人差はあると思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に個人差があり、希望を示すことができない利用者は殆ど戸外に出られていない。	家族との外出、外泊は自由にできる。支援は個人差が大きく、意思表示があれば買い物や自宅を見に行ったり、近隣の散歩などの支援ができるが、意思表示が難しいとユニットの外出企画時の支援のみになっている。車椅子での外出を入居者は楽しめているか、他にどんな支援ができるか模索している。	家族からも外出の機会を増やして欲しいと希望があるので、ボランティアを募って車椅子での外出の機会を増やすなど、入居者が戸外で気持ちよく過ごせる工夫を期待する。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持については、利用者の状況等を相談し、利用者と家族とにお任せしており、買い物にお連れした場合には、自分の財布から出される方もいる。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、ご希望でかけてお繋ぎすることもある。手紙のやり取りも、返事を促す等の支援をしている。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に不快や混乱を招くような刺激はないよう配慮されていると思う。控えめだが、季節の絵や花を飾ったりしている。	ホーム内はバリアフリーになっている。2つのユニットにはさまれて中庭があり、両ユニットとも日中入居者が集う居間兼食堂や風呂場が明るい。中庭には季節の花が植えられたプランターがあり、入居者が世話をしている。居間兼食堂のテーブルの下に入居者のために手作りの足置きがあり、空気清浄機が設置されている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂で過ごされる方が多く、そこでは独りになれないと思うが、それ以外の場所では可能である。居間兼食堂の二人掛けソファには、気の合う利用者同士がよく一緒に座られているし、デイのテラスや、玄関側の廊下等も利用されている。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、本人や家族と相談しており、1人掛けの椅子を用意されたりしている。	居室のエアコン、カーテン、洗面台以外は、入居者が思い思いのベッド、机、イス、タンス、ラジカセなどの家具や日用品を持ち込んでいる。床に布団を敷いたり、部屋に写真や絵を飾ったり、仏壇を置いたり、入居者の好みの生活スタイルで過ごせる心地の良い居室になっている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレの表示を大きめにしたりはしているが、自立した生活を送れるような工夫という点と乏しいと思う。		